

Miri Collection

The Book

05





Miri Collection
The Book

遊牧の民が結ぶ大地の詩

広大なイラン高原に横たわるザグロス山脈の大自然は、ベルシャの人々に多くの恵みをもたらしてきました。山々がみせる大地の造形は雄大で地球の成り立ちそのものを見るようです。麓には緑鮮やかなオアシスが広がり、草を食む丸々と毛を蓄えた白や黒、茶色の羊の群れの中にイラン南部ファールス州を拠点とする遊牧民の姿があります。定住化が進んでいる現代でも彼らの生活は自然とともにあり、古より継承されてきた世界観を垣間見ることができます。

ファールス州にはかつてアジア・アフリカ・ヨーロッパをまたぐ大帝国であり、世界初の統一国家であったアケメネス朝ベルシャの都ベルセボリスがあります。王朝は遊牧民に支えられていたといわれ、インド・ヨーロッパ語族のロリ族、アフロ・アジア語族のアラブ系民族、そして中央アジアから移動してきたアルタイ語族のカシュガイ族など、多くの部族や遊牧民がこの地域で生活してきました。

ファールスのアバデ、ボルヴァルディ、ネイリーズなどの町や村に定住した人々もいれば、ザグロス山脈を夏、冬のキャンプに移動して遊牧を生業とする人々など生活様式も多様でありました。部族間の交流は、彼らが作る絨毯にも多様性を与えました。長い時の中で文様は伝承され織は熟成していったのです。

著名なベルシャ絨毯研究家のスィールース・バルハム氏はファールス地方に関する絨毯について、こう記しています。

「この地域の絨毯の特筆すべき点は、織手が自然や生活の中からモチーフを選び、下絵を描かずに即興的に織る手法が根強く受け継がれていることです。代々親から子供へと絶えることなく図柄は伝承され、時代とともに変化した図柄はごく僅かです。図柄のルーツは絨毯の歴史を更に遡り、信仰のシンボルをモチーフにしたものや紀元前3～4世紀の焼き物の図柄の中に見ることができます。

ファールスの織手たちは遊牧集落や部族集落の一員である女性で、伝統継承は使命なのでしょう。織手たちは、文章を組み立て、詩を書くように、絨毯の図柄を組み立てます。彼らの創造性は、新しい柄を生み出すことではなく、継承してきた柄の構成、色の使い方に発揮されるのです。何世紀にもわたって同じモチーフを織ってきたにも関わらず、彼らの絨毯の全てが他に類を見ないオリジナルであることは驚くべきことです。」

古の生活から生まれた信仰や人々の思いがいきいきと表れているファールス地域の絨毯には、現代の私たちにも通じる普遍的な願いや希望がこめられています。

ミーリー工房が手紡ぎ・草木染めの伝統的手法によって絨毯の再創造を初めて試みた地域がファールスのカシュガイ族の絨毯だったことは必然だったといえるでしょう。最高の素材と伝統的手技によって蘇った絨毯は、ファールスの絨毯の歴史に新しい命を吹き込みました。

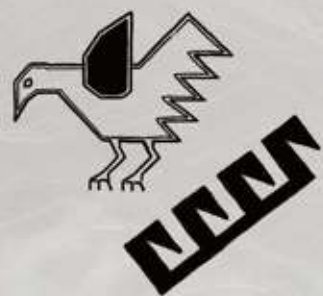
Book05では、ミーリー工房の原点ともいえるべきファールスの絨毯を中心に掲載しています。他に、クルディスタン、ハメダンなどの近郊の町マラーイェル、ビジャール、ファラハンで制作された絨毯も紹介しています。

一枚の絨毯の中に様々な文様が構成されています。何を意味しているのか不明なもの、研究者によって解釈がわかれている文様も多くあります。地域によって文様の表現も異なります。それが絨毯の奥深さと面白さ。

文様を知れば、もっと絨毯が楽しくなります。次のページではファールスの絨毯によく見られる文様をまとめました。



文様のおはなし



鳥・鳥の頭をモチーフにした文様

鳥は先史時代より焼き物にも表れているモチーフです。鳥は雨を知らせてくれるものとして水の神アナヒタのシンボルの一つと言われ、ファールズの絨毯に多くみられる文様です。孔雀は太陽神のシンボルであり、富を表すと言われています。幾何学的に表された鳥の頭の連続文様は、連続することで呪文の意味を持ち、雨乞いを意味していると言われています。



獣をモチーフにした文様

ライオンは太陽神の象徴であり、ペルシャの人々は絨毯にその姿を織り込んできました。都市の絨毯に織り込まれているライオンは刀を持ち王冠を被り権威を象徴している意匠が多く、遊牧民の絨毯に表れるライオンは可愛らしく、ユーモラスで親しみのある造形が特徴です。山羊は双頭や角がモチーフとなっているものが多く見られます。山羊の丸い角は三日月を表わし、そこに溜まった水が溢れるとき雨となって地上を潤すという神話が元となっています。そこから山羊も鳥と同様に水の神アナヒタのシンボルとされています。多産を表わす兎、魔除けである龍や蛇を表わすというS字など、身の回りの身近な動物たちが文様の中に登場しています。



メダリオン中央の4肢文様（蟹柄）

メダリオンは都市から村、遊牧民へと伝わった文様と言われています。ペルシャ庭園の中心である池や噴水を表すとされ、遊牧民のラグには2連や3連のメダリオンが織り込まれているのが特徴です。メダリオンの中央に描かれる4肢文様は水の神アナヒタを象徴する蟹、亀、太陽神を意味する卍などに由来すると言われています。



ギザギザ文様と菱形

絨毯やキリムにも表れる縁に織り込まれた三角の連続や手を表しているもの。それは結界や魔除けの意味があると言われています。菱形の中に一点中心をもつものは目を表現していると言われ、邪視をはね返す意味があります。



生命の本文様

永遠ともいえる命をもつ糸杉をはじめとする樹木は古より信仰の対象とされてきました。樹木が根を張る大地には水脈があり、乾燥地帯で生きる人々にとって樹木は、命そのものを象徴しています。鳥が集い、樹下に動物を配して楽園を表現した文様、そして花が咲いているもの、果実をつけたものは子孫繁栄の象徴、柳は愛、美しさや知性を表わすと言われています。



ボテ文様

この文様は糸杉が風になびく形に起源を求める説が有力です。ササン朝ペルシャの彫像にみられる王冠の飾りにはボテの形が使われています。王族・貴族が身に着けるものとして、一般庶民に使用が許されなかった時代もありました。王朝の崩壊によって使用が許されると、部族の間でボテ文様が使われるようになり、一族ごとに固有の形が誕生していきました。木のように根をはったもの、ボテの中に植物を内包しているもの、幾何学的に表現されたものなどがあります。ボテ文様は、世界でペイズリーとして親しまれています。



八星と卍

太陽を象徴する文様は数多くありますが、代表的なものは八星です。八星はシリウスを表わしており、古より太陽の方角を示す道標でした。遊牧民の人々が眺めてきた夜空にはたくさんの星々が煌めいていたことでしょう。卍は太陽を意味するといわれ、他に四翼は世界を創造している空気、土、火、水の四元素を表わしているという説があります。



花文様

蓮の花は聖者が生まれてくる花と言われ広い地域で愛されているペルシャ絨毯の代表的な文様です。ざくろとの融合体や俯瞰、側面からの形態など多様に展開しています。円形に花卉が並ぶ花文様は、太陽を表すとされるロゼット文様です。セゴル文様と呼ばれる3つに茎がわかれた花文様は、ササン朝ペルシャの宮廷の衣装に使用されていました。セは3を意味しゴルはペルシャ語で花。3つの花は、ササン朝時代の国教とされたゾロアスター教の三徳「良き考え、良き言葉、良き振る舞い」に由来していると言われています。八枚花卉のハシュト・ゴル文様、春の花の代表であるヒヤシンス、ダリヤとユリも好んで織り込まれています。



格子文様

格子は護られた場所を意味しています。格子は水、水の輝きを表すとも言われています。格子それぞれに糸杉や草花など異なる意匠を組み合わせたり、色面で構成したり様々な格子文様があります。

ここにご紹介した文様はほんの一部。

絨毯の面白さを知って頂くきっかけになりますように。

さあページをめくってご覧下さい。ミーリー工房の絨毯の世界へようこそ。



Left
Alambaha
116×78cm
Qashqai
Wool



Right
Sadaf
138×68cm
Qashqai
Wool



a



b



c



Left

Didar
171×130cm
Bidjar
Wool

Right

a. Shila 47×47cm Farahan Wool	b. Shokoo 29×29cm Qashqai Wool Cushion	c. Bolbol 23×23cm Farahan Wool
--	---	---



Left
Siminroo
178x142cm
Arabbaf
Wool



Right
Maryam
164x119cm
Khamseh
Wool



Left
Kilim
193×93cm
Qashqai
Wool Kilim



Right
K.Q.15
334×161cm
Qashqai
Wool Kilim



- | | |
|--|---|
| a. K.Q.108
197×120cm
Qashqai
Wool Kilim | b. K.Q.88
204×140cm
Qashqai
Wool Kilim |
| c. Kilim
138×99cm
Qashqai
Wool Kilim | d. K.Q.63
247×132cm
Qashqai
Wool Kilim |



Left
Goichak
160x115cm
Heriz
Wool

Right
Goshayesh
190x116cm
Garrous
Wool



a



b

Left

a. Gisoo
66×92cm
Bidjar
Wool

b. Ameneh
149×83cm
Garrous
Wool

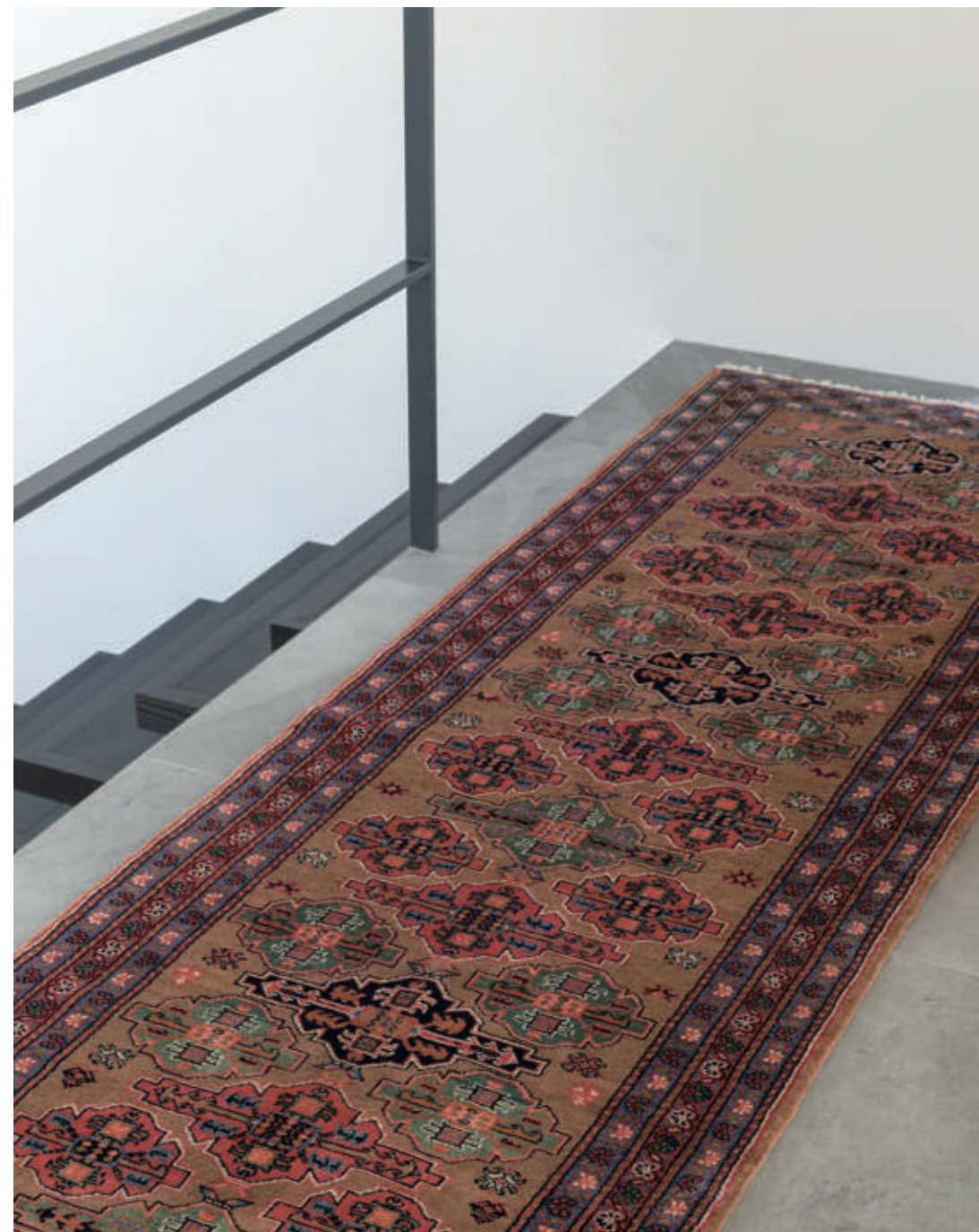
Right

Khoshhal
169×108cm
Qashqai
Wool





Left
Malus
264×240cm
Malayer
Wool



Right
Tirgan
308×86cm
Gharaghan
Wool



Negin
50×90cm
Farahan
Wool



Bujan
88×120cm
Garrous
Wool



Behtash
112×79cm
Qashqai
Wool



Goldum
294x213cm
Abadeh
Wool



Left
Saana
162×94cm
Farahan
Wool



Right
Parang
184×120cm
Bidjar
Wool



Left
Daylan
172×134cm
Garrous
Wool



Right
Najibeh
233×189cm
Qashqai
Wool



Left
Shahpasand
172×127cm
Malayer
Wool

Right
Nazafarin
219×79cm
Farahan
Wool



Left
Golfam
292×175cm
Farahan
Wool



Right
Bahaneh
189×135cm
Heriz
Wool



Left
Emrooz
145x98cm
Qashqai
Wool



Right
Hirad
86x130cm
Qashqai
Wool



Left
Elmira
217×142cm
Shahsavan
Wool Sumak

Right
Asayesh
200×118cm
Qashqai
Wool



a. Gachmeh
42×41cm
Qashqai
Wool Cushion

b. Gachmeh
40×40cm
Qashqai
Wool Cushion

c. Gachmeh
40×43cm
Qashqai
Wool Cushion

d. Gachmeh
40×40cm
Qashqai
Wool Cushion

e. Gachmeh
40×42cm
Qashqai
Wool Cushion

f. Gachmeh
41×43cm
Qashqai
Wool Cushion

g. Gachmeh
40×42cm
Qashqai
Wool Cushion

h. Gachmeh
40×42cm
Qashqai
Wool Cushion



【ミーリー工房 受賞歴】

1994 年 アディル・ベシム・オスカー賞 受賞

2006 年 HALI と DOMOTEX 主催 カーペット デザイン アワード受賞



【美術館・博物館 展示】

2004 年 渋谷区立松濤美術館

2005 年 岡山市立オリエント美術館 一宮市立博物館（愛知）

2006 年 中近東文化センター附属博物館 古代オリエント博物館

2013 年 古代オリエント博物館

2018 年 姫路市立美術館



【ミーリー絨毯 収蔵先】

ヴィクトリア&アルバート博物館（ロンドン）

絨毯博物館（テヘラン）

ノルウェー王室

THE MOST SACRED TRINITY CHURCH（ニュルンベルク）

岡山市立オリエント美術館

九州国立博物館

京都祇園祭 南観音山

京都祇園祭 鷹山

【家具提供】

象鯨彫刻家具

【制作】

千代田トレーディング株式会社 ミーリーコレクション

東京都港区白金台 5-3-7 くりはらビル 101

Tel 03 3440 9391

www.miricollection.com

@miri_collection



※価格は 2021 年時点のものです。



